

## 今日のみことば

### □ 7月15日(日) 歴代誌下 1章

ソロモンの治世が始まる。神がソロモンに何を求めるかと問われ、彼は富も宝も名誉も求めることなく、王として最も必要な知恵と知識とを求めた。

### □ 7月16日(月) 歴代誌下 2章

ソロモンは主の宮を建設する準備を始めた。ソロモンが建てようとしている宮は、「主の名のために」主を礼拝するためであった。

### □ 7月17日(火) 歴代誌下 3章

ソロモンはここで神殿の機能とそこで行われる祭儀行為について説明をする。それはイスラエルの神の超越性を強調するものであった。

### □ 7月18日(水) 歴代誌下 4章

ここには主の宮についての細かい説明がなされているが、それは出エジプトに記されている幕屋についての細かな規定を思い起こさせられる。

### □ 7月19日(木) 歴代誌下 5章

主の宮の備品についても細かい指示がされている。主が受け入れられるような礼拝の仕方が記されている。私たちは主が受け入れてくださる礼拝をしているだろうか。

### □ 7月20日(金) 歴代誌下 6章

ソロモンの献堂の祈りは、神についての非常に高度の理解を持っていたことを知らされます。神は建てられた宮に下られご自身を示されようとの、そこにお住みになることはない。

### □ 7月21日(土) 歴代誌下 7章

ソロモンが祈り終わったとき、天から火が下って全焼のいけにえを焼き尽くした。すの栄光が宮に満ち、人々はこれを見て主をほめたたえた。

---

ろ ぼ No. 1876  
2018年 7月15日  
日本バプテスト 立川キリスト教会  
牧師 大川 博之

---

ロマ 4:3

アブラハムは神を信じた。それが、彼の義と認められた。

「わたしが正しい人間である、と評価される材料はこの世にはどこにもありません。「義人はいないひとりもない。悟りある人はいない。神を求める人はいない」(3:10-11)とパウロがしっかりと宣言するここに、私たちは大切なものを聞き取らせていただくのです。私たちがしっかりと聞きとらねばならない大切なこと、どのようにして私たちは神に義とされるのか滅びることなく、永遠のいのちにいれていただくことが出来るか、ということ。そのつてとなるべきものは、私たちには一つもありません。しかしそれでも私たちは、救いに至る何らなの道がある」と考えています。どこかに道があ

るに違いないと探し求めるのです。いま私たちに必要なのは、いかに課題としっかり向きあっているかこそが大事です。パウロがこの手紙の冒頭でそのことに触れるということは、問題の基本はここにあると聞くのです。あなたは、私をだれというのですか。

「肉によるわたしたちの先祖アブラハムは何を得たというべきでしょうか。彼が行いによって義とされたのであれば、誇ってもよいが、神の前ではそれはできません」(4:1-2)とパウロは言います。ユダヤ人にとって、信仰の父であるアブラハムは大きな誇りでした。しかしパウロは、アブラハムが義とされたのは彼の万民にすぐれた善行によって義とされたのではない。かえってその行いの上には、彼には多くの欠陥がありました。そ

れでも神はそれらをすべて大目にみて、ただ彼の真実の信仰を認められたというのです。

覚えておいでですか。イエスと一緒に十字架につけられた二人の罪人がいました。その一人は「イエスよ、あなたの御国においでになるときは、わたしを思い出してください」と言った。するとイエスは「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に樂園にいる」と言われた(ルカ23:42-43)とあります。彼には罪の赦しの出来事も、生涯に何のよきものも見いだされてはいません。しかしイエスは彼に樂園を約束をされたことを私たちは聞かせていただきます。何が御国に入れられる条件だと、私たちは聞かせていただくのでしょうか。

パウロは「神はアブラハムやその子孫に世界を受け継がせることを約束されたが、その約束は、律法に基づいてではなく、信仰による義に基づいてなされたのです(4:13)と告げます。パウロはダビデの詩(4:7-8)を引用しながら「行いなくして神に義と認められる幸い」強調しました。イエスによる神の恵みの大波は、あなたの山なす罪も、一挙に洗い流すことが出来るのです。「そして、御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめる」(ヨハネ1:7)です。

これが「福音」です。私にここにあってもパウロは、私たちに、あなたは誰ですか、と問うてくるのです。救われるにふさわしい何ものも持ってはいない。しかし、私たちは神に義とされ、救いの喜びに与らせていただくことが出来る。それはイエス・キリストを主と信じる信仰によってです。昔、アブラハムを信仰によって義とされた神は、また今日も、私たちの信仰によって義とされるばかりでなく、その過ぎ越し方の罪を赦すばかりではなく、私たちが新しい人に造り変えられるお方です

## 聖書の学び・祈祷会

創世記19:15-29

救い出されたロト

アブラハムのとりなしの祈りは大きい。神はロトとその家族を救って下さいました。しかしその神の言葉に対するロトの煮えきらなさを私たちはどう見るのでしょうか。その危機感の薄さに驚きを覚えさせられますが、実は今回の大雨の災害に見舞われた地域の人たちの、避難警報に対する認識の低さが指摘される中で、人間の愚かさを見せつけられましたが、それは他人事ではないということをお心に銘じさせられました。

神さまの必要以上とも思えるロトたちへの手の差し伸べ方に注目させられながら、ぐずぐず言って神さまを困らせているロトを見ながら、それでもそれを受け止めて下さった神さまを、私たちはしっかり見つめさせていたかねばなりません。しかし神さまは、アブラハムのとりなしの祈りをしっかり聞いて下さいました。アブラハムは十人で祈りを終えましたが、神さまは一人の信仰者を救い出して下さいました。



Read God's Word.

次週の聖書・説教

ロマ5:1-11

神を喜ぶ